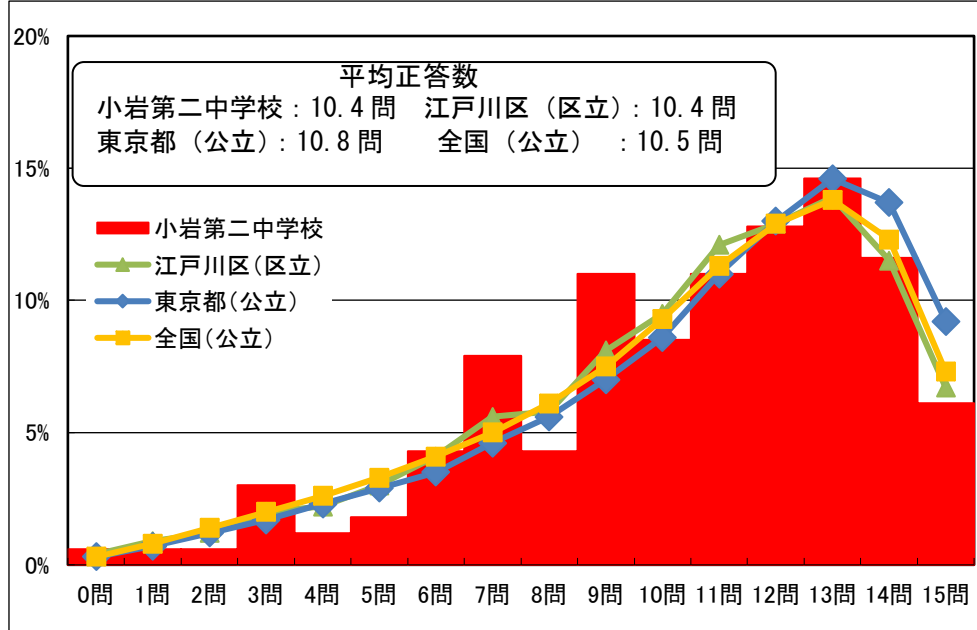
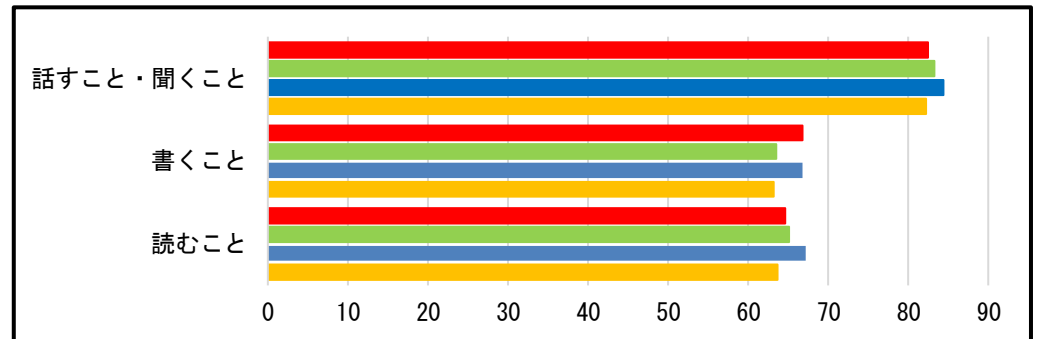
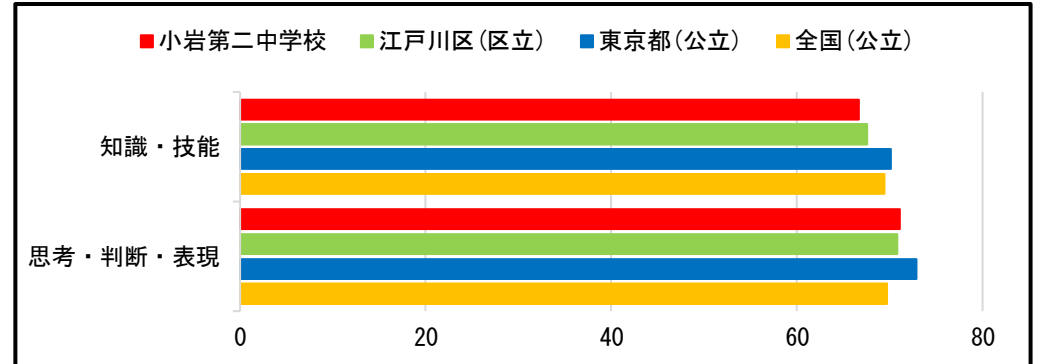


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 小岩第二中学校

正答数分布



「領域別」の結果



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

国語	上位 ← 下位			
	A層 13~15問	B層 12問	C層 9~11問	D層 0~8問
小岩第二中学校	17.7	27.4	30.5	24.3
江戸川区(区立)	18.2	26.8	29.7	25.3
東京都(公立)	22.9	27.6	26.6	22.9
全国(公立)	19.6	26.7	28.1	25.6

【平均正答率の差】

小岩第二中学校	70%
江戸川区(区立)	69%
東京都(公立)	72%
全国(公立)	69.8%
都との差	2ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

A層が全国平均より1.9ポイント低く、A・B層の合計でも0.6ポイント低いという結果になっている。このことより、上位層を増やしていくための指導が必要である。また、D層は全国平均より1.3ポイント高いが、C・D層の合計では、1.1ポイント低くなっている。前段から総合して考えると、B・C層の学力を高める工夫が必要であると考えられる。授業では知識・技能の定着のために、既習内容の繰り返し学習を増やし、知識を活用できるようにしたい。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。